キャラクター名	プレイヤー名
簀 海翔	

シンドローム	サラマンダー サラマンダー	**ワークス**	高校生	**カヴァー**	高校生
オプショナル		**年齢**	17(高校二年生)	**性別**	男
覚醒	死	**衝動**	恐怖	**初期侵食率**	35 %
出自	父親不在	**経験**	大きな転機	**邂逅**	『 』

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	0	0	1			1
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	32
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	**SL**	**修正**	**技能**	**SL**	**修正**	**技能**	**SL**	**修正**	**技能**	**SL**	**修正**
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
(氷炎の剣)	白兵	5r-2	6	7		コスト:3
氷塊の饗宴		0				<氷炎の剣+氷の回廊>※描写下記参照
村時雨・連	白兵	10r-2	6	9		氷炎の剣装備時、クリティカル値-2、<炎の刃>+<結合粉砕>+<コンセントレイト(サラマンダー)>※描写下記参照

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

木刀	
ウェポンケース	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
綾瀬 真花（あやせ まなか）	P 慕情	N 不安		
簀 哲也(かがり てつや)	P 尊敬	N 不安		
佐藤 大雅(さとう たいが)	P 友情	N 不安		
簀 優子(かがり ゆうこ)	P 庇護	N 不安		
矢神 秀人(やがみ しゅうと)	P 親近感	N 嫌悪		
堂島 健司	P 信頼	N 嫉妬		
宗形 貴一郎	P 憧憬	N 不安		

最大財産P: 4	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
氷炎の剣	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	(下記の"戦闘・武器・防具欄"参照)							
氷の回廊	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	飛行状態で戦闘移動を行う。移動距離を+[LV×2]m							
炎の刃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	攻撃の攻撃力を+[LV×2]							
結合粉砕	5	4	メジャー	-	-	対決	ピュアブリード	
効果：	判定のダイスを+LV個する。装甲値を無視。							
クロスバースト	2	4	メジャー	-	-	対決	80%	
効果：	攻撃の攻撃力を+[LV×4]、判定のダイスは-2個							
コンセントレイト(サラマンダー)	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	クリティカル値を-LV(下限値 7)							
快適室温	1	-	メジャー	至近	シーン全体	自動	-	
効果：	シーン内の気温をあなたが快適だと思う温度に調整できる。							
不燃体	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	あなたは、通常の炎や寒さからダメージを受けない。							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【基本】
簀 海翔(かがり かいと)、17歳(高校二年生)。剣道部所属。未覚醒。

剣には幼い頃から親しんでおり、高校一年生の時に全国大会で優勝したことがある。
その太刀筋は少し独特で、剣道とはまた別物で"剣術"という実践向けの動きをするものだった。
周りの人からは"我流"と呼ばれ簡単には真似ることは出来なかった。
"我流"と呼ばれているこの剣術には"天泣紅燕流(てんきゅうこうえんりゅう)"という正式な名前がある。
これは、父から伝えられた剣術だが出自や歴史に関してはよくわかっていない。もうわからない…。
しかし、これだけは覚えている。
「昨日の我に、今日は勝つべし。」

簀 海翔は、母の実家で母と祖父母の4人で暮らしている。
父は、海翔が小学6年生の時に出張先でバスの爆発事故に巻き込まれて亡くなっている。
"行ってきます。"
"行ってらっしゃい□"
この会話が父と交わした最後の会話となった。
父が亡くなったことを受け入れるのに2年ほどかかった。

"天泣紅燕流"は、基本の型を全て教わっていないため、鍛錬をしながら自らで試行錯誤しながら型を生み出している。
その点から見れば"我流"なのかもしれない。